

海外の切手が語る日本の近現代

蜂谷紀之



左：ポーランド 2019年9月30日発行

福田会（ふくでんかい）

下：カナダ 2019年4月25日発行

バンクーバー朝日 切手帳

無額面、円形シール式 10枚組

（シート地右下に当時の「朝日 vs シアトル・ウエスタン・ジャイアンツ戦」観戦チケット）

次頁右下：同表紙（縮尺 90%）



福田会(ふくでんかい)、ポーランド

前頁掲載のポーランド切手は 2019 年に発行され、100 年前に行われた日本の福田会によるポーランド人孤児救援活動を記念したものです。福田会は日本の社会福祉法人で、1876 年に創設された日本最古の児童養護施設です。

ポーランドでは 18 世紀以降、ロシアなど周辺列強による分割や支配などが繰り返されていました。1918 年の第一次世界大戦の終結で、ポーランドの独立は回復します。しかし、ロシアのシベリアには多数のポーランド人政治犯が捕らえられ、当時、取り残された多数の孤児の救出をポーランドは各国に求めています。この要請に唯一応えたのが日本で、1920 年と 22 年の 2 回にわたり 1~16 歳の孤児 765 人を受け入れ、食事の世話や病気の治療などをして、1 年以内に全員を無事帰国させました。この第一陣 375 人を引き受けたのが東京の福田会です。

2018 年に日本に短期留学したワルシャワの大学生は、曾祖父にあたる人が日本に助けられたシベリアの孤児であったことを、出発直前に親戚の伯父から聞かされました。来日して、東京の日本赤十字社や、子どもたちがウラジオストクから船で到着した福井県敦賀市の資料館などを訪れると、当時の写真や曾祖父らの名前を見つけて驚きました。曾祖父は敦賀から大阪に移り、数ヶ月後に帰国したことも分かりました。この留学生の話は日本でも大きく報道されました。

バンクーバー朝日、カナダ

前頁下図は 2019 年にカナダが発行した「バンクーバー朝日」の切手帳で、右はその表紙です。バンクーバー朝日は 1914 年にカナダで設立された日系 2 世のプロ野球チームです。バント、盗塁、スクイズなどを駆使したスピード感溢れるプレーでファンを魅了し、「頭脳野球」と評されました。1919 年のバンクーバー・インターナショナルリーグ制覇をはじめ多くのタイトルを獲得しましたが、1941 年、カナダの対日宣戦布告に伴い、2 万人以上の日系市民が収容所などに送られ、チームも解散しました。バンクーバー朝日は野球だけに止まらず、人種差別に対して報復ではない形でそれを乗り越えるチームの合言葉“Ganbare”の精神の象徴と言えます。バンクーバー朝日は真摯なフェアプレイで相手に勝利し、カナダの BC スポーツホールとカナダ野球ホールの殿堂入りを果たしています。(切手帳の解説文より)



日本人移民120年、ペルー

明治維新により日本の農業形態や経済構造は大きく変わり、人口も増加するなか、とりわけ農村部などでは余剰労働力や貧困化が大きな問題でした。このため、1868年（明治元年）、ハワイ王国のサトウキビプランテーションに最初の移民が渡るなど、日本人の海外移住が盛んになりました。最初は北米移民などが多く、やがてブラジルなどの南米や、オーストラリア・太平洋の島国、そして東南アジアなどへの移住が増加しました。

ペルーの小型シートの切手部分には1899年に第一次移民790人を乗せて横浜港を出港した佐倉丸が、シート地にはサトウキビ畑で働いた移民の写真が描かれています。戦前には約23,000人の日系移民がペルーに渡りましたが、第二次世界大戦中は、日系人の家や企業が襲撃されたり、1,700人の日系ペルー人がアメリカの収容所へ送られるなど、苦難の歴史もありました。



ペルー 2020年1月27日発行 日本人移民120年

ノモンハン事件80年、モンゴル バターン死の行進75年、フィリピン

日中戦争中の1939年、満州国と、当時ソ連の衛星国であったモンゴルの間で国境紛争が発生し、日本軍とソ連軍がノモンハンで衝突しました。日本軍は壊滅的大敗を喫し、以降はソ連との戦争を避けるようになります。切手（下左）にはソ連軍の戦車や戦闘機などが描かれます。

太平洋戦争中の1942年4月、フィリピンのバターン半島では、日本軍に投降したアメリカ軍とフィリピン軍の捕虜数万人が、捕虜収容所まで数十キロの道のりを炎天下、徒歩で移動させられました。7千~1万人がマラリアや飢え、疲労などで死亡し、バターン死の行進（切手下右）として国際的に非難されました。フィリピンではこの4月9日を戦士を称える日としています。



モンゴル 2019年9月02日発行



フィリピン 2017年4月9日発行